

# 農業ビジネスを学ぶ

## 起業家育成塾に24人



育成塾の塾長を務める東北大学大学院の伊藤教授。「ビジネスで成功する人に共通しているのは、どれだけ一生懸命にやれるかだ」と強調しました。



大勢の関係者が見守る中、壇上で育成塾への応募の動機や将来の夢などを語る塾生

「ビジネスとしての農業」を学ぶ場として市が独自に開講する「登米アグリビジネス」起業家育成塾の開講式が6月5日、迫町内のホテルで開催されました。

育成塾には市内外の農家ら24人が応募しました。開講式には塾生のほか、農業・企業関係者ら約100人が出席。

塾長を務める東北大学大学院農学研究科の伊藤房雄教授（農業経済学）が「この育成塾で学んだことを、実践のビジネスに生かしてほしい」とあいさつしました。

育成塾は、経営基礎（初級・中級）と経営発展（上級）の2コースで実施。9月まで16回の講義を開きます。

# 飲酒運転根絶を確認

## 登米市で県民大会開催



県内から約800人が登米市に参集、飲酒運転根絶を誓いました（中央はあいさつする布施孝尚市長）

宮城県飲酒運転根絶県民大会（県・県警・登米市主催）が5月22日、登米祝祭劇場で開催され、県内の交通安全関係機関や団体などから約800人が参加しました。

5月22日は「飲酒運転根絶の日」です。平成17年5月22日、多賀城市で飲酒運転の車で仙台育英高の生徒3人が亡

くなった事故を契機に、平成19年に県が制定。意識高揚を図るため、毎年この日に県民大会を開催しています。

7回目となる今年の大会では、佐沼地域飲酒運転根絶活動推進委員協議会の伊藤勝会長が、「酒飲み運転追放3ない運動」など大会宣言を読み上げ、採択されました。

登米市、みやぎ登米農協、仙台ロイヤルパークホテルの3者は、登米市産食材の利用促進とPRに向けた連携協定を6月10日に締結しました。

仙台ロイヤルパークホテルで行われた締結式では、関係者が見守る中、布施孝尚市長とみやぎ登米農協の榊原勇代表理事組合長、仙台ロイヤ

ルパークホテルの廣本浩二総支配人が協定書に署名しました。

協定では、市が同ホテルを会場に各種事業を開催。みやぎ登米農協は同ホテルに食材を供給し、同ホテルではその食材を使った料理を提供したりフエアを実施したりして、登米市の魅力を発信します。

# 市とJA、仙台のホテル 食材利用拡大で協定



連携協定の締結を終え、登米市の食材をPRする（左から）みやぎ登米農協の榊原代表理事組合長、布施市長、仙台ロイヤルパークホテルの廣本総支配人



横山小みどりの少年団の子どもたちは「ずっと友達記念」としてのさされた標柱を建て、満足そうでした

# 次代につなぐ森づくり

## 市有林に苗木840本植樹

「市民参加の新たな森林づくり春・植樹祭」が5月26日、津山町大萱沢地内の市有林で開催されました。この事業は県のみやぎ環境交付金を活用して実施したものです。

当日は募集で集まった一般の参加者のほか、横山小みどりの少年団や林業関係者など188人が参加。市有林0・

42鈴にヤマザクラやクスギ、コナラなど、840本の広葉樹の苗木を植樹しました。

参加者がそれぞれの思いを標柱にするす「わたしの記念樹」には15人から希望があり、「初孫誕生記念」や「結婚記念」などの標柱を植樹した苗の隣に建て、木の成長を楽しみにしていました。

# エネルギーの安定確保

## LPガスの供給運搬協定

市と県エルピーガス協会登米支部（34社・熊谷敏明支部長）は、災害時におけるLPガスなどの供給・運搬に関する応援協定を締結しました。

6月11日に市役所迫庁舎で行われた締結式には関係者20人が出席。布施孝尚市長と熊谷支部長が協定書に署名しました。

協定では、地震や風水害による被害が発生またはその恐れがある場合、市の要請に基づき業者がガスの供給、運搬、撤去などに協力するといったものです。布施市長は「今回の協定を契機に、相互に連携をとりながら市民生活の安全安心の下支えをしていきたい」と述べました。



関係者が見守る中、応援協定を締結し握手を交わす布施市長（左）と熊谷支部長